

I 研究主題

特別支援学校のセンター的機能として連携訪問を行うための実践研究～校内における訪問員の人材育成～
香川県立香川中部支援学校 教諭 前田美帆

II 研究の目的

昨年度の実践研究では、置籍校の知的障害特別支援学校のセンター的機能の一つである連携訪問において、連携訪問員（以下、訪問員）の人材育成として、訪問員、連携訪問同行者（以下、同行者）、未経験者を対象に、同僚との対話型研修や未経験教員がベテラン訪問員に同行する実践的研究を行った。その結果、連携訪問はベテラン教員が担う業務であるという認識から、事前事後のフォロー体制や研修を積むことで、未経験者にも担うことができる業務であるという認識の変容が見られ、若年教員の連携訪問への参画意識の高まりが伺えた。さらに、研修の事後アンケート調査から、継続的に訪問員の人材育成を推進する必要があると考えた。

そこで本研究では、センター的機能としての連携訪問を充実させるために、訪問員育成を校内研修に位置付け、人材育成のあり方を検証するとともに、香川県内の特別支援学校の訪問員の人材育成について現状と課題を明らかにすることを目的とする。

III 研究の方法

【知的障害特別支援学校（置籍校）①②③】【香川県内特別支援学校④】

- ①連携訪問員データベース活用（訪問員の経験・専門性、希望の学校種・障害種の調査）
- ②連携訪問に関する研修（希望制の校内研修、経験が浅い訪問員への個別相談、未経験者の連携訪問同行）
- ③連携訪問員育成に関する教員の認識（連携訪問に必要な専門性、訪問員育成の仕組み等の調査）
- ④香川県内の特別支援学校における訪問員育成に関する調査（10校）（各校における訪問員育成の取組等の調査）

IV 結果及び考察

①連携訪問員データベース活用

訪問員の希望の学校種、障害種へ訪問できたことで、専門性を発揮できたと考えられる。一方で、希望と違う学校種、障害種へ意図的に訪問することで、訪問員の経験値や専門性の向上が期待できる。

②連携訪問に関する研修

訪問経験のない教員、訪問経験の少ない教員は校内研修への参加が積極的であるが、訪問経験のある教員は研修参加が少ない傾向が見られた。後任を育成していく意識の向上が課題であると考えられる。同行においては、同行者、訪問員共に学びの深まりが伺えた。それに伴い今後は、同行される訪問員側の知識や技術が課題である。

③連携訪問員育成に関する教員の認識

校内の人材を活用した対話や実地を通じた人材育成が有効であるとの認識が明らかになった。連携訪問には特別支援教育に関する専門性以外にも、相談校の文化の理解、カウンセリングの知識、技能の習得が求められる。校内の人材のみならず、校外の資源を活用した研修を設ける必要がある。

④県内特別支援学校における訪問員育成に関する調査

多くの特別支援学校において、一部の特定教員のみが訪問しており、訪問員に偏りがある現状が明らかになった。多様な障害への対応、訪問員の専門性向上、後任育成等の課題をどの学校も抱えており、県内全域で訪問員育成を推進していく必要がある。

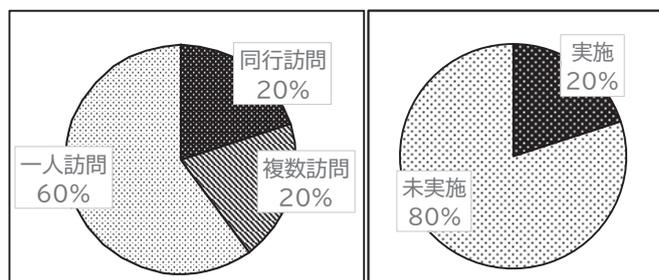


図1 県内特別支援学校の訪問人数等の状況

図2 県内特別支援学校の校内研修実施状況

V 今後の課題

県内特別支援学校において、各校の実情に応じて同行・複数訪問、校内研修を取り入れ、校内で訪問員の人材育成を行っている学校もあるが、半数以下にとどまっており、県内全ての特別支援学校において訪問員育成に課題を抱えていることが明らかになった。有意義な連携訪問を行うために、校内研修を充実させ、人材育成を推進していくことが求められる。さらに、校内研修や同行の仕組みを学校間で情報共有し、県内で広めていくには、スーパーバイザーとしての特別支援教育コーディネーターの育成が必要であると考えられる。